

S H I R O U S A G I

しろうさぎ



vol.36

2014.4.1

 島根大学
SHIMANE UNIVERSITY



目次

特集

「わからない、治らない病気に挑む
島大病院の研究と開発の最前線」

- ◆ 糖尿病患者はなぜ骨が折れやすいのか
～キーワードは「骨質」～
- ◆ 食物アレルギーで困らない世界を目指して
～小麦アレルギーの究明～

- ♣ 病院探検隊! ～リハビリテーション部編～
- ♣ 病気のみめ知識 ～五月病について～
- ♣ 私のここだけの話
- ♣ イベントなどのお知らせ
- ♣ ニュース&トピックス

応援
の
メッセージ

採用2,3年目の先輩から新採用の皆さんへ

『医者は患者に育てられる』という言葉がこの1年で実感しています。病気と共に生きる患者さんとの関わりから学ぶことはたくさんあります。そして「先生ありがとう、頑張ってるね!」という言葉はずっと心に残り日々の力になっています。地域の患者さんから学ばせていただき成長して恩返しをできるように共に頑張っていきましょう。

研修医 福山 知香



新一年次研修医のみなさん、初めまして。皆さんはようやく医師となったわけですが、医療は医学とは違った側面が多くあり、わからないことが数多くあるでしょう。時には落ち込むこともあるかもしれませんが。そんな時には気兼ねなく私たち二年次の研修医に話しかけてください。少しは力になれると思います。ゆっくりでも着実にこの島根の地で医師として成長していきましょう。皆さんのご活躍をお祈り致します。

研修医 伊奈 真一郎



私は2年目になる助産師です。入職した当初は緊張し不安なことも多かったですが、いつでも相談できる先輩方や同期の友人にも恵まれ、温かい環境の中で多くの人に支えていただきながら充実した日々を過ごしています。私自身も助産師としてまだまだ未熟ですが、女性の一生を支える仲間として一緒に働いてみませんか。

助産師 大賀美 佳子



新採用のみなさん、こんにちは。大変だった学生生活を終えられ、いよいよ看護師・助産師として新たなステージに進まれることとなり、緊張や不安・期待で胸がいっぱいだと思います。島根大学病院は教育体制が整っており、先輩方も大変丁寧に指導してくださるので安心して歩んでいきましょう。

私たちと共に患者さん、島根県の地域医療のために頑張っていきましょう!

看護師 山根 咲子



薬剤師は、各患者さんの病状や体重、検査値などの様々な情報から、処方された薬の確認を行い、薬を正しく安全に飲んで頂けるよう努めています。他職種や時には地域の薬局と協力しながら、一人一人の患者さんに合わせた薬の管理ができるよう、私たちにできることを一緒に考えていきましょう。

薬剤師 岩元 陽香



私は診療放射線技師として大学病院で働きはじめて3年目になります。日々、先輩や地域の患者様とのコミュニケーションを取る中で、一つ一つ確実に吸収しているという満足感の中で業務に打ち込んでいます。今後も、この気持ちを忘れずに島根大学のため、地域医療のため頑張ります。皆様、チーム医療で共に頑張りましょう。

診療放射線技師 野津 勝利



📷 表紙の写真について…

こちらは、平成26年4月1日付採用の医療職員が緩和ケア病棟のデッキに集合した様子です。100名を超える職員が集まると迫力がありますね。新採用職員はそれぞれに、地域医療に貢献したいという熱い思いを持っております。



キーワードは「骨質」

糖尿病患者はなぜ骨が折れやすいのか



やまもとまさひろ
内分泌代謝内科 山本昌弘 学内講師

糖尿病を患うと骨折の危険性が高まると言われていますが、その原因について当院で糖尿病の研究を進めている山本昌弘学内講師に話を伺いました。

Q 糖尿病患者さんが骨折しやすくなる原因は何ですか？

A 糖尿病患者さんに限らず一般的に骨折しやすくなる原因は、カルシウム不足・運動不足・加齢に伴う骨密度の減少等によって骨粗しょう症になることです。しかしながら、糖尿病患者さんは骨密度が低下していなくても骨折の危険性があります。それは、骨の「密度」ではなく、骨の「質」が悪化するからです。理想的なのは竹のようにしなやかさのある骨ですが、糖尿病患者さんの骨は硬いけれど弾力性がなくポキッと折れてしまうチョークに例えられます。

我々の研究グループでは、骨質の変化をもたらす要因を探っています。そこで、主に2つの要因を究明しました。

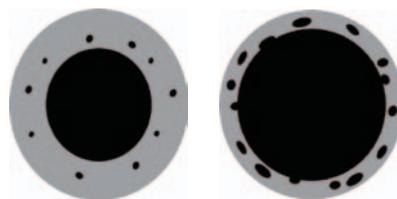
1つ目は、「ペントシジン」という物質が骨の弾力性を失わせて「糖化」（体内の余分な糖分がタンパク質と結びつく反応）を引き起こしていることです。

2つ目は、糖尿病患者さんの骨は新陳代謝が低下し、骨のひび割れなどが更新されないまま蓄積されてしてしまうことです。

我々の研究成果ではありませんが、細く穴の

多い骨であることも分かっています（次のイラストを参照）。

どうこつ
橈骨（前腕骨）の断面像



非糖尿病

糖尿病

※糖尿病患者さんの前腕骨や脛骨は、細くて薄く穴が多い、折れやすい形をしている。

Q 糖尿病患者さんが骨折を予防するにはどうすればよいですか？

A 骨粗しょう症患者さんと同様な注意とともに、よい血糖状態であることが大切です。今後も、糖尿病患者さんの骨が折れにくくなるような予防と治療が提案できるような研究を進めていきます。

（取材：総務課広報担当）

小麦アレルギーの究明

食物アレルギーで困らない世界を目指して



皮膚科 もり た えいしん 森田 栄伸 教授

食事をした後体がかゆくなったり息苦しくなったりしたことはありませんか？
もしかしたら食物アレルギーが原因かもしれません。今回は、特に小麦アレルギーについて皮膚科の森田栄伸教授にお話しいただきました。

Q 食物アレルギーが起きる仕組みを教えてください。

A 食物アレルギーには、IgE抗体とヒスタミンが関係しています。IgE抗体は体に異物が侵入してきた際の免疫反応でできる異常な抗体です。これが特定の食べ物と反応して、ヒスタミンとかゆみ等を引き起こす物質が分泌されます。

Q 食物アレルギーに対して、当院ではどのような研究を進めているのでしょうか？

A まず食物アレルギーの正確な診断ができるよう様々な検査法の改良を試みています。この結果、小麦アレルギーの正確な検査法を開発することができました。

食物アレルギーの検査法としては血液検査が一般的です。私たちは小麦アレルギー患者さんのほとんどが、 ω -5グリアジンという蛋白

質が原因となっていることをつきとめ、この成果に基づいて独自の検査法を開発しました。この方法を用いると従来のアレルギー検査方法より診断の正確性が格段に向上することがわかり、今では保険適用され一般に広く利用できるようになりました。

さらにこの検査法を用いて島根県内の成人を調査したところ、およそ1,000人に1人が小麦アレルギーの可能性あることが判りました。小麦アレルギーは、小麦を食べたときに症状がいつも出るとは限らないため、食事をした後に何らかのアレルギー症状が出る方は、一度病院で検査してみてください。

この他にも食物アレルギーを究明するために種々のアレルギー検査法の開発に精力的に取り組んでいます。

(取材：総務課広報担当)

病院探検隊!

リハビリテーション部編



前号に引き続き、今号も「病院探検隊!」を開催しました。今回は9名の方にリハビリテーション部を探検していただきました。参加者の皆さんが一番興味を持っておられたのは、やはりロボットスーツHALでした。当日は県内の新聞社やテレビ局の取材もあり、活発な質疑応答が行われるなど、白熱した1時間でした。案内役は江草典政療法士長と石田修平理学療法士です。

リハビリテーション部の説明



リハビリテーション部には16名の療法士があり、1日に約150人の患者さんがリハビリを受けておられます。脳卒中や神経難病、呼吸器の病気、がん、スポーツでの負傷など、様々な患者さんに対する治療が行われています。また、患者さんのお宅に訪問して、在宅支援スタッフと協力して住環境を整えたりもしています。

1

日常生活の動作を実際に練習できる設備



患者さんの自宅のお風呂やキッチンの高さ、幅を再現できる設備で日常生活を練習してもらい、退院後の社会復帰を支援しています。

2

ロボットスーツHAL



装着して歩いた後に、患者さんが足に加えた力の記録を見ることが出来ます。当院では、主に神経難病の患者さんの治療に使用しています。

4

3

HALは、足に4箇所貼られた電極から患者さんが加えた僅かな力を読み取って筋肉の働きを増幅し、足の動きをサポートする装置です。装着に要する時間は約30分で、PCモニターでアシストレベルの調整や重心の偏り具合のチェックを行います。

ご参加
いただいた方
より

広いスペースに最新鋭のHALや沢山のリハビリ器具があり、データに基づいたリハビリが行われていることが分かりました。また、退院してスムーズに日常生活に戻れるように台所や風呂のモデルルームで練習できるようになっており、患者さんやご家族にとって心強いと思いました。

病気の

まめ

知識



精神科神経科科長
ほりぐち じゅん
堀口 淳

〇 五月病について 〇

五月病とは、親元を離れて、初めて一人暮らしになった大学生などがかかる、一種の「寂しさ病」です。「里恋しい病」、「親恋しい病」ですよ。4月に入学して5月頃から、なんとなく学校に行くのも億劫になり、ポロリと涙したり、街中をうろうろしたり、部屋に閉じこもったり、冴えない表情で眉間に皺が寄ったり、口数も減り、寝不足や食欲不足になったりします。ヒトの「芯」、「中心」が脆くなってきて、親に連絡するでもなく、次第に無気力、無感動にも陥りますね。まあ、友達でもできれば大丈夫、大丈夫。

昔、東大生のなかに、どなただったか、お偉い先生がそんな学生を発見して「五月病」と名付けられたようですよ。これはですね、病気じゃありませんよ。ほら誰だって、古里を離ればなんだか寂しくなってくるよ。私たちの大学にも海外からの留学生がたくさん来られていまして、大学院生の立場などで頑張っておられます。せっかくの楽しい海外生活、勉強生活になればいいのですが、ちょっと心配。お国柄の違いから「文化ショック」も手伝って、「寂しさ病」を超えて、「うつうつ病」になられては大変。みんなでお友達になってあげることですね、お薬は。

私の ここだけの 話



医療社会文化学講座 英語 教授 岩田 淳

6年前、ハンガリーを訪れた際、エステルゴムという町にある有名な聖堂を見にいこうとしたときの事です。乗り換えるバスが分からず右往左往していたところ、近くにいた初老の女性がハンガリー語で話しかけてくれました。ハンガリー語が話せない私は、地図で目的地を指さすと、その女性が「スズキ！スズキ！」と繰り返します。「あなたはスズキさんですか？」と質問されていると思った私は「ノー、イワタ、イワタ！」と答えますが、相手はポカンとした表情です。その後、お互い身振り手振りを交えながら、なんとか会話をしていくうちに、エステルゴムには日本の自動車メーカー「スズキ」の生産工場があり、スズキ車はハンガリーで大変人気だということをその女性は伝えてくれようとしていたのだと分かりました。その後エステルゴム行のバスが到着すると、その女性は同じ方向に行くからと私と一緒に乗車し、バスが聖堂に近づくと車内の乗客に向かってハンガリー語で「この人は大聖堂に行くから、同じバス停で降りる人がいたら近くまで案内してあげて！」(たぶんこんな意味のことを言ってくれたのだと思いますが・・・)とお願いし、バスを降りる私をやさしい笑顔で見送ってくれました。そのバス停からは、一緒にバスを降りた家族連れが大聖堂近くまで案内してくださり、かくして私は青きドナウ川を見下ろす丘に建つ、荘厳な大聖堂に無事たどり着いたのです。ハンガリー語が話せていれば、あの親切な女性や乗客の方々と、もっとたくさん会話できたのにと、今でも悔やまれます。もう一度お会いできたら、「クスヌム！」(ハンガリー語で「ありがとう」)と心を込めて伝えたいです。

(写真：エステルゴムの大聖堂からのぞむドナウ川)



イベントなどのお知らせ

● 島大病院「ちょっと気になる健康講座」を開催中!

当院では、来院される患者さんや一般市民の方向けに、健康や医療に関するミニ講座を開催しています。毎週木曜日11時～11時30分の間、玄関待合ホールで行っていますので、気軽にお立ち寄りください。



回数	月 日	担当	講師	テーマ
第21回	4月 3日(木)	内分泌代謝内科	守田美和	糖尿病の種類と原因
第22回	4月10日(木)	肝・胆・膵外科	木谷昭彦	おしりの気持ち
第23回	4月17日(木)	産科	今村加代	妊娠する前にしておきたいこと
第24回	4月24日(木)	腫瘍・血液内科	鈴宮淳司	がんの耳寄り情報
第25回	5月 1日(木)	放射線科	中村友則	あなたにもあるかも?閉塞性動脈硬化症
第26回	5月15日(木)	精神科神経科	長濱道治	不眠(睡眠)について
第27回	5月22日(木)	救命救急センター	仁科雅良	救命救急センターのご紹介
第28回	5月29日(木)	膠原病内科	近藤正宏	未定
第29回	6月 5日(木)	循環器内科	岡田大司	心不全とは?
第30回	6月12日(木)	小児外科	溝田陽子	でべその話
第31回	6月19日(木)	婦人科	片桐 浩	子宮がん検診について
第32回	6月26日(木)	腎臓内科	福永昇平	慢性腎臓病ってご存知ですか?

● 病院ボランティアコンサート 開催予定

4月18日(金)19時より

音楽を贈る会「ドルチェ」

5月16日(金)19時より

合唱団「アルページュ」

6月20日(金)19時より

出雲交響吹奏楽団「緑」



開催場所:
玄関待合ホール

● いきいき健康講座「まめなかくらぶ」 放映予定(出雲ケーブルビジョン)

4月放送

放射線部技師長 山本 泰司
「安全で質の高い画像情報提供に向けて」

5月放送

リハビリテーション部療法士長 江草 典政
「ますます広がるリハビリテーション」

6月放送

地域医療政策学講座教授 廣瀬 昌博
「地域包括ケアにおける大学病院の役割」

5月14日(水)に「看護の日」を開催します。
昼の部、夜の部開催予定です。

NEWS & TOPICS ニュース & トピックス

エチオピアの外国人研究者 Endale 先生が 佐田町内の往診に同行しました。

2月24日(月)、エチオピアから本学医学部に研修に来ている外国人研究者Endale先生が、佐田診療所所長の土谷治久先生に同行して佐田町内の往診に出かけました。土谷先生は、以前に本院の第三内科で勤務されており、Endale先生に奨学金の援助をされていることもあって、今回のようにEndale先生が往診に同行したり、豆まきなどの佐田町内のイベントに参加したりしています。



総務課より

小児センター病棟で節分イベントを開催しました。

2月4日(火)、当院の小児センター病棟で入院している子どもたちに節分を楽しんでもらうイベントを開催しました。保育士による人形劇を見て和やかな雰囲気の中、2匹の鬼が登場しました!突然の鬼の登場に歓声が沸き、子どもたちは「おには～そと、ふくは～うち」と元気な掛け声で鬼に豆を投げっていました。

小児センター病棟では、季節毎にさまざまなイベントを企画していますので、今後もお知らせしていきたいと思ます。



看護師募集

インターンシップ
病院見学会へ
来てみてね!

教育指導体制が充実した環境で
自分らしくいきいきと働くことができます。

●インターンシップ ●奨学金制度 ●採用試験
について詳しくは

看護部ホームページをご覧ください。

島根大学医学部

検索



お電話でのお問い合わせ

看護部 TEL **0853-20-2478**



編集後記

寒い冬が終わりを告げて、すっかり春らしく暖かな日々がやってきましたね。今号のしろうさぎでは、読者の皆様からご感想を賜りたく、アンケート用紙を同封しております。

皆様の貴重なご意見をお待ちしております。次号の発刊予定は7月です。

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

医学部総務課 企画調査係 広報担当
TEL : 0853-20-2018
E-mail : mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

